

只木ゼミ前期第 11 問検察反対尋問レジュメ

文責:2 班

I. 反対尋問

- 5 1. 弁護側のとる過失犯説によれば、防衛行為に過剰な認識のある誤想過剰防衛でも故意犯が否定されて過失犯が成立するということか。
2. 弁護レジュメ 1 頁 16 行目について、なぜ行為者の主観面を重視しすぎると妥当でないのか。
3. 弁護レジュメ 1 頁 31 行目について、なぜ誤想した法益侵害が現実には起こった場合と同じ責任しか問うことができないから、過剰防衛の規定を適用するのか。
- 10 4. 狭義の誤想防衛の場合で急迫不正の侵害の誤信つき過失がある場合、弁護側の立場ではどのように処理するか。

以上